

医療通訳 ロールプレイ・シナリオ

● 基礎編

- 頭痛（筋緊張性頭痛）…………… 9
- 頭痛（クモ膜下出血）…………… 10
- 頭痛（偏頭痛）…………… 11
- バセドウ病…………… 12
- 喘息のような発作…………… 13
- 子どもの発熱…………… 14
- 心臓の痛み…………… 15
- 肝硬変…………… 16

● 応用編

- 腹痛…………… 17
- 風邪引き…………… 18

● 作成

岐阜大学大学院医学系研究科・医学部
MIC かながわ
(財) 岐阜県国際交流センター

シナリオ 基本編	題名 頭痛（筋緊張性頭痛）患者 板井玉夫（玉子）	設定 内科外来、初診
<p>〈このシナリオでの狙い〉基本編：通訳職に必須の姿勢を重点に学びます。</p> <p>①頭痛は、誰でも罹患（りかん 病気になる）する可能性のある疾患です。問診が大切であり、症状によって診断の内容が大きく違ってくる可能性があります。正確な通訳をするための練習用です。</p> <p>②通訳は、分からない単語があれば、意味を確認する必要があります。この実行の練習をします。</p>		
<p>〈医師役が演じるべきこと〉</p> <p>シナリオの通りに、患者に話しかけてください。</p> <p>初診の患者が受診しています。患者を呼び入れて問診をしてください。台詞は、示された通りに。</p> <p>〈患者役が演じるべきこと〉</p> <p>20歳～50歳</p> <p>患者役だけでなく、通訳育成教員として通訳が正しく翻訳しているのかも、チェックして下さい。</p> <p>〈通訳役が演じるべきこと〉</p> <p>医師や患者の言葉を自力で翻訳して下さい。</p>		  



シナリオ	指導のポイント	覚えたい用語
<p>医師「今日は、どうしました」</p> <p>患者「頭がとつても痛くて心配できました。」</p> <p>医師「もう少し詳しく教えていただけますか？」</p> <p>患者「昨日から激しい頭痛があって薬を飲んでも治らずずっと続いているのです。」</p> <p>医師「それは心配ですね」</p> <p>患者「はい、心配です。何か大きな病気ではないかと心配になったので、受診しました。」</p> <p>医師「確かに放置しても大丈夫の頭痛もありますが、放っておけない頭痛もあるんです」</p> <p>患者「頭痛って、怖いんですね。」</p> <p>医師「頭痛の原因が問題ですネ」</p> <p>患者「私の場合、大丈夫ですか？」</p> <p>医師「頭痛の様子を聞けば、危ない頭痛か、すぐに検査をすすめた方がよい頭痛か、ある程度見当がつかます」</p> <p>医師「頭痛はどんなふうになりますか」</p> <p>患者「初めに痛みだしたのはもう一カ月ぐらい前になります。午後仕事の終わりごろから頭の左半分の後ろの方が全体にいたくなってきます。いつも夕方になるとひどくなります。」</p> <p>医師「突然、吐いたりしませんか？」</p> <p>患者「吐き気はありませんがいつも肩こりがしています。」</p> <p>医師「めまいや言葉のもつれはありますか。」</p> <p>患者「そういった症状はありません。」</p> <p>医師「目の前が、突然、ピカッと光ったりしませんか？」</p> <p>患者「そんなことはありませんでした。」</p> <p>医師「なるほど、あなたの頭痛の原因がだいぶ分かってきました。</p> <p>筋緊張性頭痛が疑われるのでまずお薬を試してみましょう。なかなか良くならない時は脳腫瘍などの重い病気はないかどうか念のため検査をしましょう。」</p> <p>★ 通訳から説明を求められた時に医師から伝える内容。</p> <p>医師：頭の後ろ側の筋肉が緊張して固くなってしまふことで起きる頭痛です。多くの場合、ストレスや疲れによって起きるものでほとんど危険はありません。肩こりがひどい時にも起きることが多いです。脳の病気ではなく、首の後ろの筋肉が緊張しているだけです。飲み薬で良くなることが多いです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時系列は非常に重要なのでメモをとり正確に訳す。 ・診察に直接関係なさそうな医師のセリフでも、患者とのコミュニケーションなので漏らさず正確に訳す。 ・患者の不安な気持ちが伝わるように訳す。 ・問診が重要とわかるので、ここから先は辞書やメモを必ず使用し正確に訳す。 ・時系列は非常に重要なのでメモをとり正確に訳す。 	<p>頭が痛い</p> <p>激しい頭痛</p> <p>薬を飲む</p> <p>治る</p> <p>大きな病気</p> <p>受診する</p> <p>原因</p> <p>危ない</p> <p>検査</p> <p>吐く</p> <p>吐き気</p> <p>肩こり</p> <p>めまい</p> <p>言葉のもつれ</p> <p>症状</p> <p>筋緊張性頭痛</p> <p>脳腫瘍</p> <p>筋肉</p> <p>ストレス</p> <p>疲れ</p>

シナリオ 基本編	題名 頭痛（クモ膜下出血）患者 板井玉夫（玉子）	設定 内科外来、初診
<p>〈このシナリオでの狙い〉基本編：通訳職に必須の姿勢を重点に学びます。</p> <p>①頭痛は、誰でも罹患（りかん 病気になる）する可能性のある疾患です。問診が大切であり、症状によって診断の内容が大きく違ってくる可能性があります。正確な通訳をするための練習用です。</p> <p>②通訳は、分からない単語があれば、意味を確認する必要があります。この実行の練習をします。</p>		
<p>〈医師役が演じるべきこと〉</p> <p>シナリオの通りに、患者に話しかけてください。</p> <p>初診の患者が受診しています。患者を呼び入れて問診をしてください。台詞は、示された通りに。</p> <p>〈患者役が演じるべきこと〉</p> <p>20歳～50歳</p> <p>患者役だけでなく、通訳育成教員として通訳が正しく翻訳しているのかも、チェックして下さい。</p> <p>〈通訳役が演じるべきこと〉</p> <p>医師や患者の言葉を自力で翻訳して下さい。</p>		  



シナリオ	指導のポイント	覚えたい用語
<p>医師「今日は、どうしました」</p> <p>患者「頭がとつても痛くて心配できました。」</p> <p>医師「もう少し詳しく教えていただけますか？」</p> <p>患者「昨日から激しい頭痛があつて薬を飲んでも治らずずっと続いているのです。」</p> <p>医師「それは心配ですね」</p> <p>患者「はい、心配です。何か大きな病気ではないかと心配になったので、受診しました。」</p> <p>医師「確かに放置しても大丈夫の頭痛もありますが、放っておけない頭痛もあるんです」</p> <p>患者「頭痛って、怖いんですね。」</p> <p>医師「頭痛の原因が問題ですネ」</p> <p>患者「私の場合、大丈夫ですか？」</p> <p>医師「頭痛の様子を聞けば、危ない頭痛か、すぐに検査をすすめた方がよい頭痛か、ある程度見当がつかます」</p> <p>医師「頭痛はどんなふうが始まりますか」</p> <p>患者「今日の朝、今まで経験したことがないような激しい痛みが突然始まりました。」</p> <p>医師「突然、吐いたりしませんか？」</p> <p>患者「激しい痛みで食事ものを通りません。」</p> <p>医師「めまいや言葉のもつれはありますか。」</p> <p>患者「頭痛がもう耐えられないほどひどくてそれどころではありません。こんな痛みは初めてです。」</p> <p>医師「目の前が、突然、ピカッと光ったりしませんか？」</p> <p>患者「光は見えません。太い棒で殴られているように頭がとつても痛いです。早く何とかしてください。」</p> <p>医師「なるほど、あなたの頭痛の原因がだいぶ分かってきました。お話からするとクモ膜下出血などの重い病気が隠れている可能性があります。すぐに検査をやっておきましょう。」</p> <p>★ 通訳から説明を求められた時に医師から伝える内容。</p> <p>医師：解りました。英語では、Subarachnoidal Hemorrhage と書きます（ポルトガル語、フィリピン語の場合）。漢字では蜘蛛膜下出血と書きます（中国語の場合）。脳の表面の血管が破けたために、脳の周囲に血液が漏れ出している状態です。これまでに経験したことがないような激しい頭痛を起こすことが特徴ですが、普通の脳出血と違って初期には麻痺などの症状がないために発見が遅れることがあります。しかし、CT スキャンを行えばほとんどの場合診断がつかます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時系列は非常に重要なのでメモをとり正確に訳す。 ・診察に直接関係なさそうな医師のセリフでも、患者とのコミュニケーションなので漏らさず正確に訳す。 ・患者の不安な気持ちが伝わるように訳す。 ・問診が重要とわかるので、ここから先は辞書やメモを必ず使用し正確に訳す。 ・時系列は非常に重要なのでメモをとり正確に訳す。 	<p>頭が痛い</p> <p>激しい頭痛</p> <p>薬を飲む</p> <p>治る</p> <p>大きな病気</p> <p>受診する</p> <p>原因</p> <p>危ない</p> <p>検査</p> <p>吐く</p> <p>めまい</p> <p>言葉のもつれ</p> <p>症状</p> <p>クモ膜下出血</p> <p>脳の表面</p> <p>血管が破けた</p> <p>血液が漏れ出す</p> <p>脳出血</p> <p>初期</p> <p>麻痺</p> <p>CTスキャン</p> <p>診断がつく</p>

シナリオ 基本編	題名 頭痛（偏頭痛）患者 板井玉夫（玉子）	設定 内科外来、初診
<p>〈このシナリオでの狙い〉基本編：通訳職に必須の姿勢を重点に学びます。</p> <p>①頭痛は、誰でも罹患（りかん 病気になる）する可能性のある疾患です。問診が大切であり、症状によって診断の内容が大きく違ってくる可能性があります。正確な通訳をするための練習用です。</p> <p>②通訳は、分からない単語があれば、意味を確認する必要があります。この実行の練習をします。</p>		
<p>〈医師役が演じるべきこと〉</p> <p>シナリオの通りに、患者に話しかけてください。</p> <p>初診の患者が受診しています。患者を呼び入れて問診をしてください。台詞は、示された通りに。</p> <p>〈患者役が演じるべきこと〉</p> <p>20歳～50歳</p> <p>患者役だけでなく、通訳育成教員として通訳が正しく翻訳しているのかも、チェックして下さい。</p> <p>〈通訳役が演じるべきこと〉</p> <p>医師や患者の言葉を自力で翻訳して下さい。</p>		  



シナリオ	指導のポイント	覚えたい用語
<p>医師「今日は、どうしました」</p> <p>患者「頭がとつても痛くて心配できました。」</p> <p>医師「もう少し詳しく教えていただけますか？」</p> <p>患者「昨日から激しい頭痛があって薬を飲んでも治らずずっと続いているのです。」</p> <p>医師「それは心配ですね」</p> <p>患者「はい、心配です。何か大きな病気ではないかと心配になったので、受診しました。」</p> <p>医師「確かに放置しても大丈夫な頭痛もありますが、放っておけない頭痛もあるんです」</p> <p>患者「頭痛って、怖いんですね。」</p> <p>医師「頭痛の原因が問題ですネ」</p> <p>患者「私の場合、大丈夫ですか？」</p> <p>医師「頭痛の様子を聞けば、危ない頭痛か、すぐに検査をすすめた方がよい頭痛か、ある程度見当がつかます」</p> <p>医師「頭痛はどんなふうが始まりますか」</p> <p>患者「二日前から激しい痛みで我慢ができません。これまでもしばしばこのようなひどい頭痛の発作に見舞われます。」</p> <p>医師「突然、吐いたりしませんか？」</p> <p>患者「痛みがひどい時には吐き気もすることがあります。」</p> <p>医師「めまいや言葉のもつれはありますか。」</p> <p>患者「ありません。」</p> <p>医師「目の前が、突然、ピカッと光ったりしませんか？」</p> <p>患者「はい、はい。そういえばいつもこの頭痛が始まる前には目の前にちかちかと光るものが見えることが多いです。」</p> <p>医師「なるほど、あなたの頭痛の原因がだいぶ分かってきました。偏頭痛の可能性があるので、まず偏頭痛のお薬を試してみませんか。偏頭痛なら今日のお薬がとてよくきくと思います。」</p> <p>★ 通訳から説明を求められた時に医師から伝える内容。</p> <p>医師：一般には頑固な頭痛のことを偏頭痛と言っていることがありますが、医学用語の偏頭痛はある一つの原因で起きている頭痛のことを言います。それは頭の中の血管が何らかの原因で突然収縮してしまって生じるものです。突然始まって長い時には数日続くものがありますが、血管の緊張を取るお薬を飲むことで早く治すことができます。発作のように繰り返しますが、痛くなる前に目の前に光のようなものが見えるという人も多いです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時系列は非常に重要なのでメモをとり正確に訳す。 ・診察に直接関係なさそうな医師のセリフでも、患者とのコミュニケーションなので漏らさず正確に訳す。 ・患者の不安な気持ちが伝わるように訳す。 ・問診が重要とわかるので、ここから先は辞書やメモを必ず使用し正確に訳す。 ・時系列は非常に重要なのでメモをとり正確に訳す。 	<p>頭が痛い</p> <p>激しい頭痛</p> <p>薬を飲む</p> <p>治る</p> <p>大きな病気</p> <p>受診する</p> <p>原因</p> <p>危ない</p> <p>検査</p> <p>吐く</p> <p>吐き気</p> <p>めまい</p> <p>言葉のもつれ</p> <p>偏頭痛</p> <p>可能性</p> <p>医学用語</p> <p>血管</p> <p>収縮</p> <p>生じる</p> <p>発作</p>

シナリオ 基本編	題名 バセドウ病 患者 馬瀬道治 (道子)	設定 内科外来、初診
<p>〈このシナリオでの狙い〉基本編：通訳職に必須の姿勢を重点に学びます。 医師は、患者に分かりやすい表現で説明する必要があります。しかし、外国人にはとても分かりにくい話し方をする医師がいます。たとえば、難しい言葉を使う、いくつもの質問事項をいっぺんに、など。その時、通訳は、どのように対応すべきかを学びます。</p>		
<p>〈医師役が演じるべきこと〉 シナリオの通りに、患者に話しかけてください。</p> <p>〈患者役が演じるべきこと〉 シナリオの通りに、通訳に母国語で話しかけてください。</p> <p>〈通訳役が演じるべきこと〉 シナリオの通りに、医師や患者に話しかけてください。 医師に直接、問いかけてください。</p>		



シナリオ	指導のポイント	覚えたい用語
<p>医師「どうぞお入りください。」 患者「はい」 医師「馬瀬さん、ですね。」 患者「はい」 医師「今、紹介状を読ませて、いただきました」 患者「はい、私、前の病院でバセドウ病だから、市民病院で診てもらえと言われて…」 医師「はい、この紹介のお医者さんは、私の後輩です。よく知っています。」 患者「先生、バセドウ病って、何ですか？」 医師「これはネー、代謝が亢進してしまう病気なんです。甲状腺機能亢進症と言うほうが、実態をよく表しているんですね。」 患者「それって、どういうことですか？」 医師「うう～ん、素人に説明するのは、むずかしいんだナ～。要するに、汗かいたり、心臓がドキドキしたり、ゲツソリ痩せたり、血圧がバーンと上がったり、イライラしたり、イロイロ出てくるんですワ。」 患者「はあ…」(不安そうな顔をする)</p> <p>★ 「もう少し解り易く説明してください」と言われた場合は、医師は以下のように説明する。</p> <p>「これは体の活動が活発になりすぎる病気です。甲状腺という名前の臓器が首のここについています。この臓器は体を活発にするためのホルモンを出しています。ホルモンというのは人間の体が自然に作り出す薬のようなものです。バセドウ病という病気はこのホルモンが多すぎる状態になります。」</p> <p>医師「まあ、この辺のことは、紹介状に書いてあるから、結構です。時間もあれやから、診察の方、先にしましょうか。」 患者「はい」 医師「首を見せてください。はい、つばを飲み込んでみて。」 患者「はい」</p> <p>(甲状腺の触診の後) 医師「はい、結構です。次に胸の音を聴きますので、少し、服を緩めていただけますか？」 患者「はい」</p> <p>(胸部聴診の後) 医師「次に血圧を測ります。左手で測りましょうかネ。ちょっと、シャツを捲り上げていただけますか」 患者「はい」</p> <p>(血圧測定の後) 医師「血圧が、高いようですね。手のひらを、見せてください。じっとり汗をかいていますね。以前より汗が出るのが多くなったと思いますか？」 患者「はい」 医師「動悸がしたり、焦燥感が強くなったりしていませんか？」 患者「はあ？」 医師「う～ん、脈が速いんですね、心臓のドキドキ(鼓動)が、以前よりも早くなっていますか。」 患者「はい、階段を上がる時など、心臓が口から飛び出すような感じがします。」 医師「ちょっとしたことでイライラしたり、不安になったりしませんか」 患者「最近怒り易くなったと言われます。すぐにかつとして、子供を叱ったりします。」</p>	<p>・難しい専門用語は辞書を使うか、訳せるよう言い換えてもらう。</p> <p>・「ドキドキ」「バーン」などの擬態語、擬音語は、具体的に言い換えてもらってから訳す。</p>	<p>紹介状 バセドウ病</p> <p>代謝 亢進 甲状腺機能亢進症 汗をかく 心臓 痩せる 血圧が上がる</p> <p>体の活動が活発になる 臓器 首 ホルモン</p> <p>つばを飲み込む</p> <p>胸の音を聴く 服を緩める</p> <p>血圧を測る シャツを捲り上げる</p> <p>手のひら</p> <p>動悸 焦燥感 脈が速い 鼓動</p> <p>不安</p>

シナリオ 基本編	題名 喘息のような発作 患者 全作太郎 (作代)	設定 救急、初診
<p>〈このシナリオでの狙い〉 基本編：通訳職に必須の姿勢を重点に学びます。 通訳は、医師や、患者の発現をそのまま、訳す必要があります。通訳が感情移入のあまり、自分勝手な発言をしてしまう場合があります。これを避けることを学びます。</p>		
<p>〈医師役が演じるべきこと〉 シナリオの通りに、患者に話しかけてください。</p> <p>〈患者役が演じるべきこと〉 シナリオの通りに、通訳に母国語で話しかけてください。</p> <p>〈通訳役が演じるべきこと〉 シナリオの通りに、医師や患者に話しかけてください。</p>		



シナリオ	指導のポイント	覚えたい用語
<p>医師「どうされました？」 患者「喘息です。苦しいので治療をして欲しいのです。」</p> <p>医師「今まで、何回も発作を起こしているのですね。」 患者「はい……そうです」</p> <p>(呼吸が苦しそう)</p> <p>医師「今まで、発作のときは、どんな治療をしていましたか？」 患者「かかりつけの医院で、喘息のための吸入と点滴してもらっていました。」</p> <p>(呼吸が苦しそう)</p> <p>医師「どうして、今回は、そちらのお医者さんに行かないのですか？」 患者「私は普段、静岡の病院に喘息と糖尿病がかかっています。でも昨日、親戚の結婚式があって岐阜に来ました。昨夜のパーティーで食べすぎて胸やけがしていたのだけど、だんだん苦しくなってしまって。いつもの喘息だと思うんですけど、今回が一番苦しいわ…」</p> <p>(ゼイゼイ苦しそう、早く治療をして欲しい)</p> <p>医師「ちょっと待ってください。 今回の発作は、胸の重苦しい症状もあったのですか？ 心臓の病気とか、したことありますか？」</p> <p>患者 (苦しそうに息をしつつ、通訳に向かって) 「また質問なの？ 本当に回りくどい先生ね。確かに胸は重苦しかったけどそれは単なる食べすぎよ。私は心臓病をした覚えはありません。そんなこと関係ないから、早く注射をするように言ってください。こんなに苦しんでいるのに、どうしてすぐに治療してくれないの。私の言っていることが分かってないんじゃないの。」</p> <p>★ ここで通訳が 「①胸の重苦しい症状もありましたが、②早く治療をしてください」のように、①と②の両方を正確に訳した場合は (A) に進む。 ②だけで、胸の症状を伝えていない場合は (B) に進む。</p> <p>(A) 医師「はい、呼吸の音を聴きます。胸を開けていただけますか？」 患者 苦しそうに息をしつつ、うなずいている (聴診の後) 医師「うーん、ただの喘息ではなくて、心臓喘息のような音がしていますね。おそらく胸が重苦しかったのは、食べすぎではなくて心筋梗塞の発作だったのでしょうか。今回は重い心臓の発作が起きたので、喘息に似た症状がでたのでしょうか。とても危険です。すぐに集中治療室での治療を開始しましょう。」</p> <p>(B) 医師「そうですか。いつもと同じ症状なら、普通の喘息の点滴をしましょう。」 患者「早くしてください。」 医師「今点滴していますよ。どうですか楽になってきましたか？」 患者「… (無言で白目をむいている)」 医師「あれ、どうしたのですか…？ 大変だ。失神している…」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病名を正確に訳す ・「何回も」頻度は重要な診断ポイントなので、訳し漏れのないよう注意する。 ・キーワードを落とさないように訳す。 ・患者さんが感情を乱した表現をしたとき、通訳が冷静でないと重要なキーワードを落としがちです。 	<p>喘息 治療 発作</p> <p>医院 吸入 点滴注射</p> <p>糖尿病 食べすぎ 胸やけ</p> <p>胸の重苦しい症状 心臓</p> <p>呼吸</p> <p>聴診 病氣聴診 心臓喘息</p>

シナリオ 基本編	題名 子供の発熱 患者 熱田高志ちゃん	設定 小児科外来、初診
----------	---------------------	-------------

〈このシナリオでの狙い〉基本編：通訳職に必須の姿勢を重点に学びます。
 ①子供の発熱は、ありふれた状況です。基本的な表現を学びましょう。
 ②通訳は、「説得してください」という要請を受け入れません。この方針を学びます。

<p>〈医師役が演じるべきこと〉 シナリオの通りに、患者に話しかけてください。 初診の患者（熱田高志ちゃん、2歳）が受診しています。患者親子と呼び入れて問診をしてください。会話は、以下の通り。途中、通訳の顔をみつつ、話をしてください。通訳は、「私の方を見ないで、患者のほうを見て話をしてください」と言うはずです。</p> <p>〈患者役が演じるべきこと〉 シナリオの通りに、通訳に母国語で話しかけてください。 熱田高志ちゃんの親 熱田高雄（高子）20歳～50歳 高志ちゃん（2歳）を連れて小児科を受診しています。会話は、以下の通り。 途中、通訳の顔をみつつ、話をしてください。通訳は、「私の方を見ないで、医師のほうを見て話をしてください」と言うはずです。</p> <p>〈通訳役が演じるべきこと〉 シナリオの通りに、医師や患者に話しかけてください。 「通訳さん、何とか言ってください。説得してもらわないと、治療ができません。」の要請に応じない。 医師や患者が通訳のほうを向いて話しかけ続けたら、「私の方を見ないで、医師のほうを見て話をしてください」と言ってください。</p>	
--	---



シナリオ	指導のポイント	覚えたい用語
医師「熱田さん、どうぞお入りください」 親「はい、失礼します」 医師「今日はどうされましたか？」 親「この子が、熱を出しました」 医師「いつから熱が出ましたか？」 親「4日前からです。」 医師「先ほど看護師が計りましたが、熱は40度ですね。高志ちゃんは熱を出しやすい体質ですか？」 親「はい、そうです。このところ2、3ヶ月に一度くらいの割で、熱を出します。」 医師「今回の熱、ずうっと高いままですか？」 親「前に他の医院でもらった座薬を入れたら、熱が下がります。でも、また上がってきます」 医師「そうですか。ところで機嫌は、どうですか？」 親「悪いです。ぐずつきます。」 医師「ぐったりすることは、ありませんか？」 親「もう、ぐったりしています！」 医師「ミルクは、ちゃんと飲んでますか？」 親「ミルクなんて、飲める状態ではありません」 医師「咳は、どうですか？」 親「ありません。」 医師「下痢は、してませんか？」 親「便が少し柔らかいですが…下痢というほどではありません。」 医師「皮膚は、どうですか？ブツブツが出ていませんか？」 親「私が見た限りでは、無いと思います。」 医師「家族で、同じように熱を出している人は、いませんか？」 親「誰もいません。この子ひとりです」 医師「今までに乳児検診を受けていますね。そこでなに言われていませんか？」 親「いえ、何も…この子の成長は、順調でした。」 医師「はしかの予防接種は、していますか？母子手帳は、お持ちですか？」 親「はしかの予防接種は、していません。手帳は家に忘れてきました。先生、早く注射を打って、熱を下げてやってください」 医師「診察が済んでから、手当てをします、それに、私は、熱のある子供に注射をしない方針です」 親（通訳の方をもう向いて） 「注射の方が効くわ、どうしてこの医者は注射してくれないの！」 医師「解熱剤を使うなら、私は座薬を使います」 親「でも、この熱には、座薬は効きません。熱が下がっても、またすぐに上がってしまいます」 医師「熱を無理やり下げる必要は、ありません。」 親「前にかかった医者は、注射をしてくれました。注射をしてください」 医師「通訳さん、何とか言ってください。この人を説得してもらわないと、治療ができません。」	<ul style="list-style-type: none"> ・「はい」も訳す。 ・数字や単位は正確に訳す。 ・親の感情が伝わる言葉を選ぶ。 ・「ブツブツ」のようなオノマトペは話者に具体的な意味を確認して訳す。 ・親が通訳に向かって話していても自分の判断は伝えず医師に話すように差し向ける。 ・「正確に通訳しますので、説得は、先生にお願いします」などと対応する。 	熱を出す 看護師 体質 座薬 機嫌 ぐずつく ぐったりする 咳 下痢 便が柔らかい 皮膚 乳児検診 成長 順調 母子手帳 注射を打つ 熱を下げる 診察 手当 効きません

シナリオ 基本編	題名 心臓の痛み 患者 板井信三 (ハート)	設定 内科外来、初診
<p>〈このシナリオでの狙い〉基本編：通訳職に必須の姿勢を重点に学びます。</p> <p>①診断のために、医師が患者の個人的な事情を把握すべき疾患があります。この社会背景の会話に関する基本的な表現の練習をしましょう。</p> <p>②ダラダラと長い発言であっても、通訳が「こんなの不必要」と勝手に判断し、短縮するのは許されません。このポイントを勉強しましょう。</p> <p>心臓神経症は、長期にわたる精神的ストレスにより罹患する可能性のある疾患です。確定診断のためには、まず胸に痛みを起す疾患（狭心症、気胸、肋間神経痛など）を否定する必要があります。</p> <p>そして患者の精神的ストレスの有無を確かめる必要があります。そのためには、患者が置かれた状況をしっかり聞き出します。ですから患者との話は、長くなりがちです。</p>		
<p>〈医師役が演じるべきこと〉方針</p> <p>シナリオの通りに、患者に話しかけてください。</p> <p>初診の患者が受診しています。患者を呼び入れて問診をしてください。</p> <p>上記にあります「このシナリオでの狙い」を一読し、演技をお願いします。</p> <p>〈患者役が演じるべきこと〉</p> <p>シナリオの通りに、通訳に母国語で話しかけてください。</p> <p>20歳～50歳</p> <p>心臓のあたりが痛むので、死ぬのではないかと心配になり、内科外来を受診。医師の問診に応じてください。</p> <p>〈通訳役が演じるべきこと〉</p> <p>①診断のために、医師が患者の個人的な事情を把握すべき疾患があります。</p> <p>この社会背景の会話に関する基本的な表現の練習をしましょう。</p> <p>②ダラダラと長い発言であっても、通訳が「こんなの不必要」と勝手に判断し、短縮するのは許されません。</p> <p>このポイントを勉強しましょう。</p>		  



シナリオ	指導のポイント	覚えたい用語
<p>医師「今日は、どうされましたか？」</p> <p>患者「心臓が、痛いのです」</p> <p>医師「それは、どこですか」</p> <p>患者「ここです。この左胸のところですか」</p> <p>医師「なるほど。その左胸の痛みは、いつからですか？」</p> <p>患者「はい、心臓が痛いのは、半年ぐらい前からです…」</p> <p>医師「かなり前からですね。痛みはどのくらい続きますか？」</p> <p>患者「とても長く続くので、心配なのです。ああ、今日もまた痛くなってきました」</p> <p>医師「一旦痛くなると、何分ぐらい続くのですか？」</p> <p>患者「はい、そのうちに直るだろうと思っていたが、痛みが続くのです。このまま死んでしまうのではないかと、不安です。いつまで経っても治らなくて、ああ、痛いです。先生、このまま心臓が止まってしまうのではないのでしょうか。」</p> <p>医師（いらいらした様子で）</p> <p>「うーん。私の質問の答えになっていないですね。」</p> <p>(通訳がどのように訳すのか様子を見て必要に応じてアドバイスをする。)</p> <p>患者（通訳に向かって話し始める）</p> <p>「実は、私は妻（または夫）の両親と同居しています。子供は2人。つまり6人暮らしです。家は小さく、常に顔を合わせて暮らしているんです。母親は認知症で、しょっちゅう些細なことに怒っています。昼間は寝ていて、夜に徘徊するんです。父親は、母の介護に疲れ果てて、みていられません。」</p> <p>医師「そうしますと、あなたは、今、大変な状況なんですね」</p> <p>患者「そうなんです。まあ聞いてください。子供は2人とも、学校に行かなくなってしまったのです。恥ずかしいけど。悪い友達ができてしまって万引きで警察に捕縛されたことが、今までに3回。本人達は仲間に引きずられてしまって…。今のままの交友関係が続くなら、また同じ事を繰り返すでしょう。生活が苦しいので、自分も妻（または夫）も働かなければ、生きていけません。その仕事も、不景気のため、いつまで続けられるのか、とても不安です。こんな風に毎日毎日、精神的な重圧に苦しんでいるのに更に心臓の病気にまでなってしまうと、私は、いったいどうしたら良いのでしょうか？」</p> <p>医師「あなたがご心配されているのは、今の痛みが狭心症つまり心臓の発作でないかということですね？」</p> <p>患者「はいそうです。」</p> <p>医師「狭心症で胸が痛くなる理由は、心筋を栄養している冠状動脈の狭窄のために心筋に虚血が生じたためです。ほとんどの場合、労作時の5分から10分ぐらいの前胸部重圧感ですので、あなたの胸痛時の症状について、もう少し詳細に話が聞きたいのですが…」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過は重要なので正確に訳す ・「ああ」など感嘆詞も訳す。 ・話が長いときは、訳せる長さで話を切ってもらおう。 ・患者の不安が伝わるように訳す。医師が途中で口を差し挟むようであれば、「最後まで訳させてください」と制してよい。 ・「質問の答えになっていない」など相手の気分を害しそうな発言は、「そのまま訳していいですか」などと話者に確認する。 ・患者が通訳に向かって話しかけてきたら、医師のほうを向いて話すよう、何気なくうながすようにする。 ・訳せない言葉が出てきたら、訳せるよう言い換えてもらう。 ・患者の話が長く続くときは医師の様子もうかがう。 ・難しい専門用語は辞書を使うか、訳せるよう言い換えてもらう。 	<p>心臓</p> <p>左胸 痛み</p> <p>死んでしまう 不安 治らない 心臓が止まる</p> <p>認知症 徘徊 介護</p> <p>万引き 補導 仲間に引きずられる</p> <p>不安 精神的な重圧 狭心症 発作</p> <p>心筋 栄養する 冠状動脈 狭窄、虚血、 労作、胸痛</p>

シナリオ 基本編	題名 肝硬変の検査結果 患者 管公平（公乃）	設定 内科外来、再診
<p>〈このシナリオでの狙い〉基本編：通訳職に必須の姿勢を重点に学びます。</p> <p>①訳すべき内容がよく分からない場合、通訳は勝手に解釈せず、話者に意味を確認する必要があります。通訳が、この実行を練習します。</p> <p>②話が長すぎる場合、一括通訳ではなく、区切りをつけつつ、逐次訳を進めるべきです。通訳が、この実行を練習します。</p>		
<p>〈医師役が演じるべきこと〉</p> <p>シナリオの通りに、患者に話しかけてください。</p> <p>一通りの検査が終了した患者が受診しています。患者を呼び入れて病状を説明してください。</p> <p>長年にわたり、肝臓が悪い。心配だったので、市民病院の内科外来を受診。診察を受け、種々の検査を受けた、医師の説明を聞いてください。</p> <p>〈患者役が演じるべきこと〉</p> <p>シナリオの通りに、通訳に母国語で話しかけてください。</p> <p>40歳～70歳の男女が演じる</p> <p>長年にわたり、肝臓が悪い。心配だったので、市民病院の内科外来を受診。診察を受け、種々の検査を受けた、医師の説明を聞いてください。</p> <p>〈通訳役が演じるべきこと〉</p> <p>シナリオの通りに、医師や患者に話しかけてください。</p>		  



シナリオ	指導のポイント	覚えたい用語
<p>医師「この前の検査結果が出ています」</p> <p>患者「先生、結果はどうですか」</p> <p>医師「うう～ん、そうですね…」</p> <p>患者「悪いんですか？」</p> <p>医師「うう～ん、肝臓が悪いってことは、前々からご存知かと思いますが…肝臓の数値が上がっているんですよ」</p> <p>患者「いつものGOT、GPTですか？…？」</p> <p>医師「それもそうなんですが、αフェトプロテインもネ…」</p> <p>患者「αフェトプロテイン？…？ それは何ですか？」</p> <p>医師「これは、ですね…うう～ん…胎児の時にも上がる検査なのですが、肝臓が悪い人の中でも、上がる時があるんですネ、その時は気をつけたほうが、いいんですがネ。管さんの場合は…ですね…これが上がると、みんながみんな悪い状態とも言えないんですが…超音波とか、もうちょっと詳しい検査を見てみましょうか」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>医師は、肝硬変から肝癌が発生した可能性を察知し、ショックを受けています。しかし、まだ確定ではありません。この段階で、患者に悪い結果をどのように説明しているのか、自分自身で確信していません。</p> <p>また、αフェトプロテインを、どのように説明したら、患者に分かりやすいのか、自分でも迷っています。このような状況で、準備が整わないまま急に説明を開始したため、この医師の説明は、シドロモドロになってしまいました。</p> </div> <p>患者「先生、GOT、GPTが高いということの意味も、私にはよく知りません。今度の検査との違いは何ですか？」</p> <p>医師「GOT、GPTは、肝臓の細胞が壊れると上昇します。ですからGOT、GPTが高いということは、肝臓に炎症があって肝細胞が壊れていることを意味します。つまり、慢性肝炎の活動性を示しているのが、GOT、GPTです。分かりますか？」</p> <p>患者「はい」</p> <p>医師「肝硬変の患者で、αフェトプロテインの値が上がった時には、病状に注意が必要です」</p> <p>患者「どういうことでしょうか？」</p> <p>医師「αフェトプロテインが少しだけ上昇することは、肝硬変の患者さんには、しばしばみられることであり、経過観察を行っているうちに下がってしまうことも多いです。でもやはり小さな癌ができていく可能性があるのです、超音波で調べてみる必要があります。」</p> <p>患者「癌、ですか？」</p> <p>医師「ご心配なく、小さいうちに見つければ、直す方法があります。」</p> <p>患者「検査を受けて、早く見つけるほうがいいんですね」</p> <p>★（通訳がニュアンスを軽くした場合）</p> <p>患者「また超音波ですか？3か月前にもやったばかりですよ。超音波の検査はお金が高いので私はもうやりたくありません。」</p> <p>★（通訳の説明が不十分で重く伝わった場合）</p> <p>患者「癌ですって！私に癌ができていくっていうのですか。先生今まで何度も検査をしていて、大丈夫としか言っていなかったじゃないですか！」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意味があいまいな場合は「肝臓の数値が上がっている」とは、「肝臓の検査をしたら、結果の数値が上がっていた」という意味に解釈してよろしいですか？」などと具体的に確認などする。 話が長すぎて訳せない場合は、訳せる長さに切って話してもらう。 検査結果の説明が細かい場合は、重要な説明の場合が多いので、とにかく正確に訳すよう細心の注意を払う。 患者の動揺に共鳴しない。 医師の「患者の不安を取り除きたい」気持ちも伝わるよう、言葉を選んで正確に訳す。 相手との関係に悪影響を与えそうな言葉は、原則は話者に「本当に訳しますか」と確認した上で訳出する。 	<p>検査結果</p> <p>肝臓 数値 GOT GPT αフェトプロテイン 胎児 超音波</p> <p>細胞が壊れる 上昇する 炎症 肝細胞 慢性肝炎 活動性 肝硬変</p> <p>癌</p>

シナリオ 応用編	題名 腹痛 患者 原井泰三 (泰代)	設定 内科外来、初診
<p>〈このシナリオでの狙い〉 応用編：通訳の翻訳技術を重点に学びます。 食あたりは、誰でも罹患（りかん 病気になる）する可能性のある疾患です。基本的な表現の練習をしましょう。</p>		
<p>〈医師役が演じるべきこと〉 シナリオの通りに、患者に話しかけてください。 初診の患者が受診しています。患者を呼び入れて問診をしてください。台詞は、示された通りに。 なお、上記にあります「このシナリオでの狙い」を一読し、途中で演技をお願いします。</p> <p>〈患者役が演じるべきこと〉 15歳～50歳の男女が演じる 腹が痛いので、内科医院を受診。医師の問診に応じてください。 上記にあります「このシナリオでの狙い」を一読し、演技をお願いします。 医師からの質問に対して、複数の案が用意されています。任意のひとつを選び、患者として答えてください。 患者役だけでなく、通訳育成教員として通訳が正しく翻訳しているのかも、チェックして下さい。</p> <p>〈通訳役が演じるべきこと〉 これは、応用編です。医師や患者の言葉を自力で翻訳して下さい。</p>		  



シナリオ	指導のポイント	覚えたい用語
<p>医師「今日は、どうしましたか？」 (選択1) 腹痛があったので、薬を服用しましたがよくなりませんでした。 我慢できないので、来ました。 (選択2) 腹が痛み、薬をのんでも良くならず、我慢できないので、来ました。 (選択3) お腹が痛くなったので、薬をのんだのですが、痛みが続きました。 辛抱できないので、来ました。</p> <p>医師「どこが痛みますか？」 (選択1) 腹部全体が痛みます。 (選択2) お腹 全体です。 (選択3) 全部ですね。</p> <p>医師「どのように痛みますか？ 鈍い痛みですか？ キリキリとですか？」 (選択1) 痛みは、キリキリとした痛み（仙痛）です。 (選択2) はい、キリキリと痛みます。 (選択3) 鈍い痛みではなく、刺すようにキリキリと。</p> <p>医師「いつから痛みますか？ 前々からですか？ 急にですか？」 (選択1) 朝から突然です。 (選択2) 朝から突然痛み始めました。 (選択3) 前々からではないですね。突然です。</p> <p>医師「段々ひどくなりましたか？それともよくなったり悪くなったりですか？」 (選択1) 段々痛みが強くなってきました。 (選択2) 痛みは、徐々にきつくなりました。</p> <p>医師「おなかの痛みが始まった時、何をしていました？」 (選択1) 普段どおりです。ごく普通にしていました。 (選択2) いや、何もしていませんでした。普通どおり…</p> <p>医師「何をしたら、痛みがひどくなりますか？食べたあとですか？おなかがすいた時ですか？」 (選択1) 何もしなくても、常に痛いですが。 (選択2) いつでも痛みます。 (選択3) 食事との関係はありません。</p> <p>医師「トイレは、どうですか？ あっ 大のほうの意味ですが…」 (選択1) 下痢です。もう、3回もトイレへ行きました… (選択2) 普通どおりです。</p> <p>医師「吐気は、どうですか？」 (選択1) 吐き気（嘔気）があります。 (選択2) ムカムカします。</p> <p>医師「はいたりしますか？」 (選択1) 嘔吐は、ありません。 (選択2) 吐いていません。</p> <p>医師「熱は、ありますか？」 (選択1) 軽い発熱があります。悪寒はありません。 (選択2) 熱は、少し。 (選択3) 何だか、熱っぽいです。</p> <p>医師「ご飯は、おいしいですか？」 (選択1) まったく食べられません。スポーツドリンクを飲んでいただけです。 (選択2) 食欲はありませんが、何とか食べています。 (選択3) パンなら食べられます。 (注：日本語のご飯には、riceと食事の意味がある)</p> <p>医師「体 全体 しんどくありませんか？」 (選択1) しんどいです、横になりたいです。 (選択2) かなり、だるいです。 (選択3) 大丈夫です。</p> <p>医師「食あたりかもしれません。なにか、心当たりの物を食べていませんか？」 (選択1) 昨日の夜、昼弁当の残りの玉子焼きを食べました。 (選択2) 同じ食事をしている人は、いない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 患者の主訴を正確に訳す。 「腹部全体」が正確に伝わるように訳す。 「キリキリ」などの擬態語や擬音語は、具体的に言い直してから訳す。 時系列は非常に重要なのでメモをとり正確に訳す。 「大のほう」のような日本語特有の表現は、意味がはっきりしなければ聞き返して確認する。 「ご飯」が「米飯」か「食事」か医師に確認してから訳す。 	<p>腹痛 薬を服用</p> <p>食事 大のほう 下痢 吐き気 嘔吐</p> <p>発熱 悪寒 熱っぽい</p> <p>食欲</p> <p>だるい</p> <p>食あたり</p>

シナリオ 応用編	題名 風邪引き 患者 関 留雄 (留子) 設定 内科外来、初診
----------	---------------------------------

〈このシナリオでの狙い〉 応用編：通訳の翻訳技術を重点に学びます。
 ①カゼは、誰でも罹患（りかん 病気になる）する可能性のある疾患（しっかん 病気）です。基本的な表現の練習をしましょう。
 ②医師も患者も、相手の顔を見つつ話をすべきです。通訳の顔を見て話すべきではありません。この事を、通訳が学ぶ練習をしましょう。患者は、話の途中から、通訳の顔を見て話をしてください。通訳は、「私に向かって話さず、医師（患者）に向かって話してください」と依頼するはずでず。
 ③通訳は、付け足しの説明をしてはいけません、たとえ、親切心でも。その疑似体験をします。

〈医師役が演じるべきこと〉
 シナリオの通りに、患者に話しかけてください。
 初診の患者が受診しています。患者を呼び入れて問診をしてください。台詞は、示された通りに。
 なお、上記にあります「このシナリオでの狙い」を一読し、途中で演技をお願いします。

〈患者役が演じるべきこと〉
 咳と発熱がありました。内科外来を受診しました。医師の問診に応じてください
 上記にあります「このシナリオでの狙い」を一読し、途中で演技をお願いします。
 医師からの質問に対して、複数の選択が用意されています。任意のひとつを選び、患者として答えてください。
 患者役だけでなく、通訳育成教員として通訳が正しく翻訳しているのかも、チェックして下さい。

〈通訳役が演じるべきこと〉
 医師が聞きたいのは、食欲があるか、どうかである。
 しかし患者は、「日本料理がおいしいのか？」と聞かれていると勘違いし、なぜそんなことを聞くのか分からず、首をかしげている。
 それを見て、通訳は、訳したあとに、「まずいものは、まずいと言って良いのよ」勝手にと付け足しをする。



シナリオ	指導のポイント	覚えたい用語
医師「今日は、どうされましたか？」 （選択1）咳（せき）が出ます。 （選択2）咳が止まりません。 （選択3）だんだん症状がひどくなったので、来ました（受診した）。 医師「それは、大変ですね。いつから咳が出ましたか？」 （選択1）5日前から （選択2）…そうですネ…5日前ぐらい… （選択3）およそ5日前でしょうかね 医師「咳はどのくらい、出ますか？ 時々ですか？ しょっちゅうですか？」 （選択1）咳は、しょっちゅう出ます。 （選択2）時々です。 （選択3）どちらかと言うと、しょっちゅう出ます。 医師「それから、どうになりましたか？」 （選択1）次の日あたりから熱が出ました（発熱 はつねつ）。 （選択2）薬局でかぜ薬を買ってのみました（服用した）。 （選択3）熱が下がりません（解熱しない げねつ）。 医師「熱が出た時、変な寒気は、しませんか？ つまり、体がゾクゾクとする感じなんですが…」 （選択1）しませんでした。 （選択2）いいえ、何も… （選択3）いや、無かったですネ。 医師「そのほか、具合の悪いところはありますか？」 （選択1）はなみず（鼻汁）が出ます。 （選択2）くしゃみがあります。 （選択3）のど（咽）が痛いです。 医師「痰は、どうですか？」 （選択1）痰は、多いです。 （選択2）痰は、黄色です。 （選択3）痰は、ねばっこいです（粘性がある）。 医師「咳をしたとき、胸が痛んだりしますか？」 （選択1）いいえ。咳をしても、胸に痛みは無いです。 （選択2）はい、少し有ります。 （選択3）…無いと思いますが… 医師「全身に、しんどい感じは、ありますか？」 （選択1）はい。全身にしんどい感じがあります	・時系列は非常に重要なのでメモをとり正確に訳す。 ・「ゾクゾク」などの擬態語や擬音語は、具体的に言い直してもらってから訳す。「ゾクゾク=寒気」 ・鼻水（透明）と鼻汁（黄色）を単語で区別する言語では正確に訳し分ける。 ・必要であれば、辞書や用語集を使用する。	咳 熱が出る 寒気 具合が悪い 鼻水 鼻汁 痰 胸が痛む

シナリオ	指導のポイント	覚えたい用語
<p>(選択2) はい。何か、だるいです。 (選択3) 大丈夫です。</p> <p>医師「皮膚に発疹が出ていませんか？」 (選択1) 今の、何ですか？ (選択2) 発疹って、何ですか？ (選択3) すみません、もう少し、易しい言い方をお願いします。</p> <p>医師「うう～ん、つまりブツブツみたいなのが皮膚に…」 (選択1) ありません (選択2) 無いと思います。 (選択3) それは無いですね。</p> <p>医師「体の節々は、どうですか？ 関節は、痛みませんか？」 (選択1) 無いですね。 (選択2) 痛みません。 (選択3) 大丈夫です。 (選択4) なんか、少し痛みます。</p> <p>医師「ご飯は、どうですか？ 美味しく食べられますか？」 (選択1) 食欲はあります。 (選択2) まったく食べられません。スポーツドリンクを飲んでいるだけです。 (選択3) 食欲はありませんが、何とか食べています。 (選択4) パンなら食べられます。 (注：日本語のご飯には、rice と食事の意味がある。)</p> <p>医師「睡眠は、どうですか？ よく眠れますか？」 (選択1) はい、よく眠れます (選択2) まあまあですね (選択3) あんまり良くないですね</p> <p>医師「体重は、どうですか？」 (選択1) 別に…変わっていません。 (選択2) 少し落ちました。</p> <p>医師「今まで、おおきな病気はしていませんか？」 (選択1) 無いと思います。 (選択2) 無いですね。 (選択3) 特には、無いですね。</p> <p>医師「血の繋がった家族の方で、おおきな病気をされた方はいませんか？」 (選択1) よく分かりませんが、誰もいないと思います。 (選択2) 2～3年前、母が、結核で入院していました。</p> <p>医師「今回の発熱の前に、どこか旅行されて居ますか？ 外国とか、森の中とか？」 (選択1) さあ…無いと思いますが (選択2) ずうっと、この町で働いています。</p> <p>医師「アレルギーは、大丈夫ですか？」 (選択1) 大丈夫です。今まで、なかったです。 (選択2) アレルギーですか…ちょっと分からないですね</p> <p>医師「タバコは、吸いますか？」 (選択1) 少し… (選択2) 前は、吸っていたのですが、今は… (選択3) 毎日 10本ほど吸います</p> <p>医師「アルコールは、いかがですか？」 (選択1) 付き合い程度 (選択2) 好きです。毎日ビールを1本飲みます。</p>	<p>・質問が重なるときはメモをとって、訳し漏れがないようにする。</p> <p>・「ご飯」が「米飯」か「食事」か医師に確認してから訳す。</p>	<p>皮膚 発疹</p> <p>体の節々 関節</p> <p>睡眠 体重</p> <p>おおきな病気</p> <p>血の繋がった家族</p> <p>アレルギー</p> <p>タバコ</p> <p>アルコール</p>